

平成30年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 組織の名称

「平成30年度 都立小石川中等教育学校 21開拓委員会」(全日制課程)

(2) 事務局の構成

主任教諭(広報部主任)＝事務局長、広報部員2名 計3名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長2名、経営企画室長

主幹教諭(教務主任)、主任教諭(生活指導主任)、主幹教諭(進路指導主任)

主幹教諭(国際部主任)、主任教諭(SSH部主任) 計9名

(4) 協議委員の構成

立教大学教授・松本茂氏、日本科学未来館・松岡均氏、株式会社島津理化・梅田篤史氏、
文京区立駕籠町小学校長・矢部明美氏、文京区立昭和小学校長・山田晴康氏、
巢一商店会会長・中村安次氏、小石川中等教育学校PTA会長・石井利明氏、
小石川中等教育学校PTA副会長・山本隆子氏 計8名

2 平成30年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 平成30年5月18日(金) 内部委員9名、協議委員5名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、各分掌からの報告、生徒・保護者・教員対象アンケートの質問項目検討

本校の現状と課題等説明、地域対象アンケートの実施についての検討、意見交換

第2回 平成30年10月19日(金) 内部委員9名、協議委員7名

平成30年度学校経営計画進捗状況中間報告(1学期分)

学校評価の趣旨説明、地域アンケートの内容確認

協議：学校評価アンケート及び地域対象アンケートの質問項目検討

第3回 平成31年2月22日(金) 内部委員9名、協議委員6名

平成30年度学校経営計画進捗状況中間報告(2学期分)

学校評価結果の報告及び学校経営に対する提言

協議：評価結果についての協議及び学校経営に対する提言

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 平成30年5月18日(金) 内部委員1名、評価委員2名、事務局3名

学校運営連絡協議会設置要綱、学校評価の趣旨確認、今年度の学校評価の内容・項目の確認

第2回 平成30年10月19日(金) 内部委員1名、評価委員3名、事務局3名

今年度の学校評価の内容・項目の最終確認

第3回 平成31年2月22日(金) 内部委員1名、評価委員4名、事務局3名

評価結果の分析・考察、学校経営に対する提言の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

ア 「学校の姿勢・進路指導」「授業・学習」「学校生活・行事」の三つの観点から評価を行った。

イ 中等教育学校の完成年度である平成23年度から、数年間はこの観点を基本として評価を行い、
経年変化を追い、分析することをねらいとしたアンケート質問項目を継承し、実施した。

ウ 項目16「わたしは充実した学校生活を送っている」を最重要項目と位置づけ、そう考える理由
を尋ねた。

エ 質問項目を一部修正して作成し、実施した。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ア 10月～11月 全校生徒 対象：944人 回収：939
- イ 10月～11月 保護者全員 対象：944人 回収：939
- ウ 11月 教職員 対象：64人 回収：64
- エ 11月～12月 地域商店街 対象：80人、町会 対象：168人、
近隣小中学校保護者 対象：89人 計357人 回収216

オ 回収率 (%)

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
生徒	99.5	98.1	99.4	100.0	99.4	100.0	100.0
保護者	99.5	99.4	100.0	100.0	97.4	100.0	100.0
教職員	100.0						
地域	60.5						

(3) 主な評価項目

ア 保護者・教職員・生徒向け質問項目

小石川教養主義、理数教育、国際理解教育、教育内容・方法の工夫、授業時間外の学習支援、学校行事、面談の機会、体罰・暴言の防止、いじめ防止、キャリア教育、教育目標、授業・自宅学習の取り組み、他者を尊重する考え方、挨拶、規範意識、学校生活の充実について、それぞれ評価項目を設定した。

イ 教職員向け質問項目

ワークライフバランスについて、評価項目を設定した。

イ 地域向け質問項目

地域との連携、本校への認知度について、それぞれ評価項目を設定した。

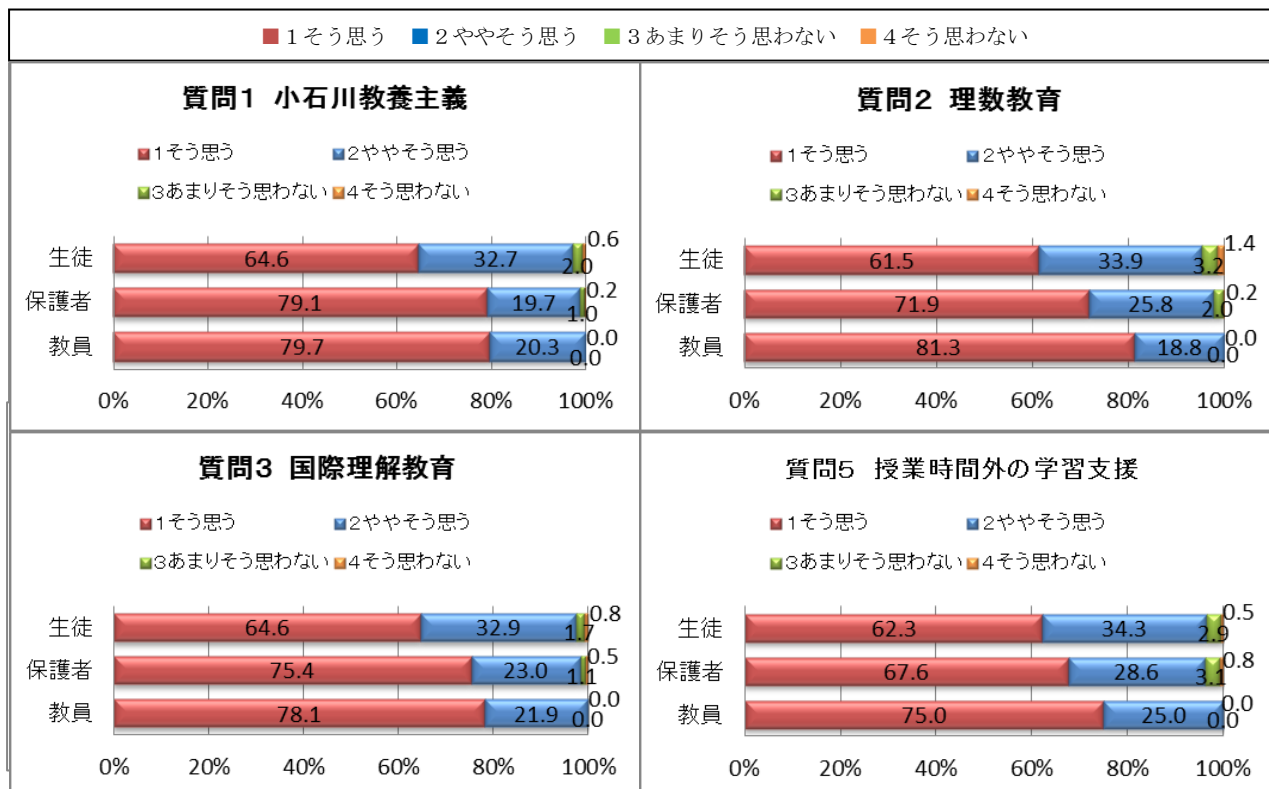
(4) 評価結果の概要

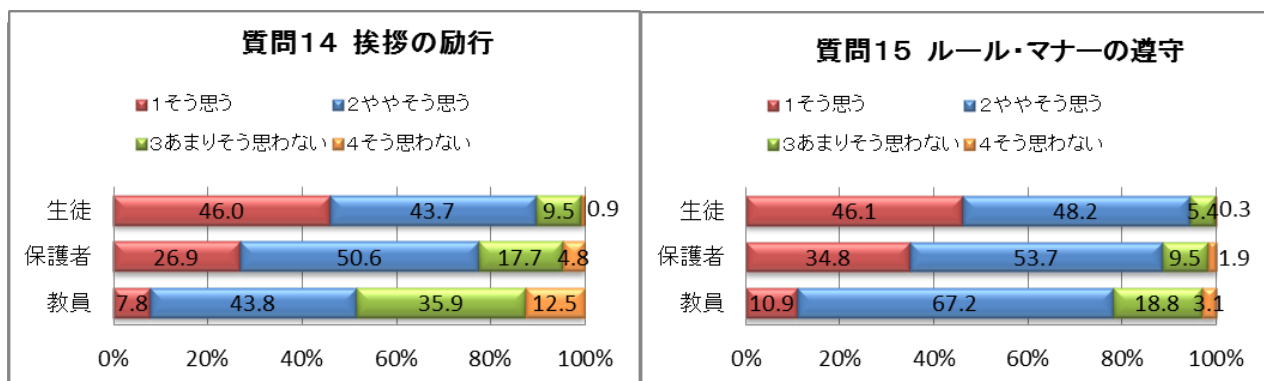
ア 保護者・教職員・生徒向けアンケート

すべての項目において、1あてはまる 2どちらかというとあてはまる 3あまりあてはまらない 4あてはまらない から選択してもらった。1あてはまる 2どちらかというとあてはまる を“肯定的な意見”と捉えると、ほとんどの項目で8割以上の肯定的な意見が得られた。

特に、本校の教育活動の3本柱である小石川教養主義、理数教育、国際理解教育と、授業時間外の学習支援は95%以上が肯定的な意見であった。

生徒・保護者・教員で割合が異なった項目は、挨拶の励行、ルール・マナーの遵守であった。





イ 地域向けアンケート

(ア) 質問1「地域とかかわる行事や活動を行っていると思いますか。」は、そう思うが40.3%、ややそう思うが39.8%、あまりそう思わないが13.4%、そう思わないが6.5%であった。

(イ) 回答していただいた年代は、近隣町内会は60代から70代、商店会は40代から60代、小学校保護者は30代から40代が多かった。

(ウ) 記述欄から、防災、防犯、交通安全などのパトロールや地域行事、地域のお祭り、小学校との交流などの連携を希望されていることがわかった。

(5) 評価結果の分析・考察

ア 各質問に対する肯定的な意見の割合は以下の通りであった。

	生徒	1+2	保護者	1+2	教員	1+2
100%	国際理解教育	97.5	小石川教養主義	98.8	小石川教養主義	100.0
	小石川教養主義	97.3	国際理解教育	98.4	国際理解教育	100.0
	授業外の学習支援	96.6	理数教育	97.7	理数教育	100.0
	理数教育	95.4	キャリア教育の推進	96.8	授業外の学習支援	100.0
	充実した学校生活	94.7	行事を通じた主体性・創造性	96.6	教育内容・方法の充実	98.4
	ルール・マナーの遵守	94.3	授業外の学習支援	96.1	行事を通じた主体性・創造性	96.9
	行事を通じた主体性・創造性	94.0	充実した学校生活	95.3	充実した学校生活	95.3
	キャリア教育の推進	91.6	教育内容・方法の充実	94.5		
			立志・開拓・創作	93.9		
			他者を尊重する考え方	92.5		
90%	立志・開拓・創作	89.9	ルール・マナーの遵守	88.6	立志・開拓・創作	89.1
	教育内容・方法の工夫	89.8	体罰・暴言の防止	85.1	他者を尊重する考え方	87.5
	挨拶の励行	89.7	いじめ防止	82.6	体罰・暴言の防止	84.4
	他者を尊重する考え方	86.4	面談・面接の機会	81.5	面談・面接の機会	84.1
	面談・面接の機会	81.6	授業・自宅学習の取り組み	80.4	授業・自宅学習の取り組み	82.8
80%	体罰・暴言の防止	79.4	挨拶の励行	77.5	ルール・マナーの遵守	78.1
	いじめ防止	76.5			いじめ防止	76.6
	授業・自宅学習の取り組み	74.6			キャリア教育の推進	76.2
70%						
60%					挨拶の励行	51.6

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

外部の協議委員8名を迎えて3回の会議をもつことができた。協議委員は、大学教授、科学コミュニケーター、企業関係者、小学校校長、商店会会長、PTA役員であり、それぞれの立場から学校教育全般に渡って貴重なご意見を伺うことができた。

(2) 学校教育診断アンケートを実施して明らかとなった課題

ア 「挨拶の励行・ルール・マナーの遵守」について

自ら率先して挨拶することをはじめ、登下校時のマナー等、ソーシャルスキルを身につけられるように、学校全体で取り組んでいく必要がある。

イ 「地域との連携」について

地域に対してどのような活動ができるか、どのように参加することがよいかなどについて生徒に考えさせていくことから始めていきたい。また、東京寺子屋・職場体験・奉仕体験活動等の地域と連携した活動を実施した際に、地域の方々に学校教育診断アンケートをお願いする。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

本校の教育活動の柱となる「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」に対する認知度は、生徒及び保護者とも昨年同様に高いものとなっている。また、「充実した学校生活」に関しては、生徒及び保護者から昨年度同様、約95%の高い評価となり、若干だが昨年度より上がっている。

(2) 進路指導

「生徒一人一人が希望する160通りの生き方の実現」を目指して、「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を推進していく。模擬試験の答案分析等を行い、生徒の学習における課題を明確にし、情報の共有を図っていく。年々海外大学受験の希望者が増加していることを受け、海外大学入学に向けた支援を充実させていく。

(3) 学習指導

「教育内容・方法の工夫」及び「授業時間外の学習支援」に関する肯定的な評価の数値の合計は、生徒及び保護者とも90%を超えている。授業評価アンケートの結果やコメントを併せて活用し、より生徒の実態に即した教育活動を実践していく。昨年度までに課題とされていた適切な課題の出し方や量については、教科及び学年の共通理解を図りながら取り組んでいる。

(4) 生活指導

「挨拶の励行」及び「ルール・マナーの遵守」に関する肯定的な評価の数値の合計は、生徒及び保護者とも昨年度より高くなり90%前後であるが、教員の評価は50%と低い。しかし、挨拶は指導されてすることが重要なのではなく、その場にあわせて自然にふるまえることの方が大事であるとの指摘を受けた。学校経営計画にある「ソーシャルスキル」についても挨拶にとどまらず、状況に応じて柔軟に対応することを、学校生活の中でも意識させていく必要がある。

(5) 地域連携

昨年度同様、掲示板における情報発信、地域連携事業をまとめた冊子とリーフレットを作成・配布するなど、地域への情報発信に努めた。警察、消防及び町会等の方々に防災委員としてご協力いただき、避難訓練及び宿泊防災訓練に関する助言を受け、より実践的な訓練を実施した。職場体験や奉仕体験において地域の方にも協力をいただいている。来年度は実際に生徒と関わっていただいた地域の方にもアンケートを実施することで、地域からも情報を得て連携の充実を図っていく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7人	1人					

